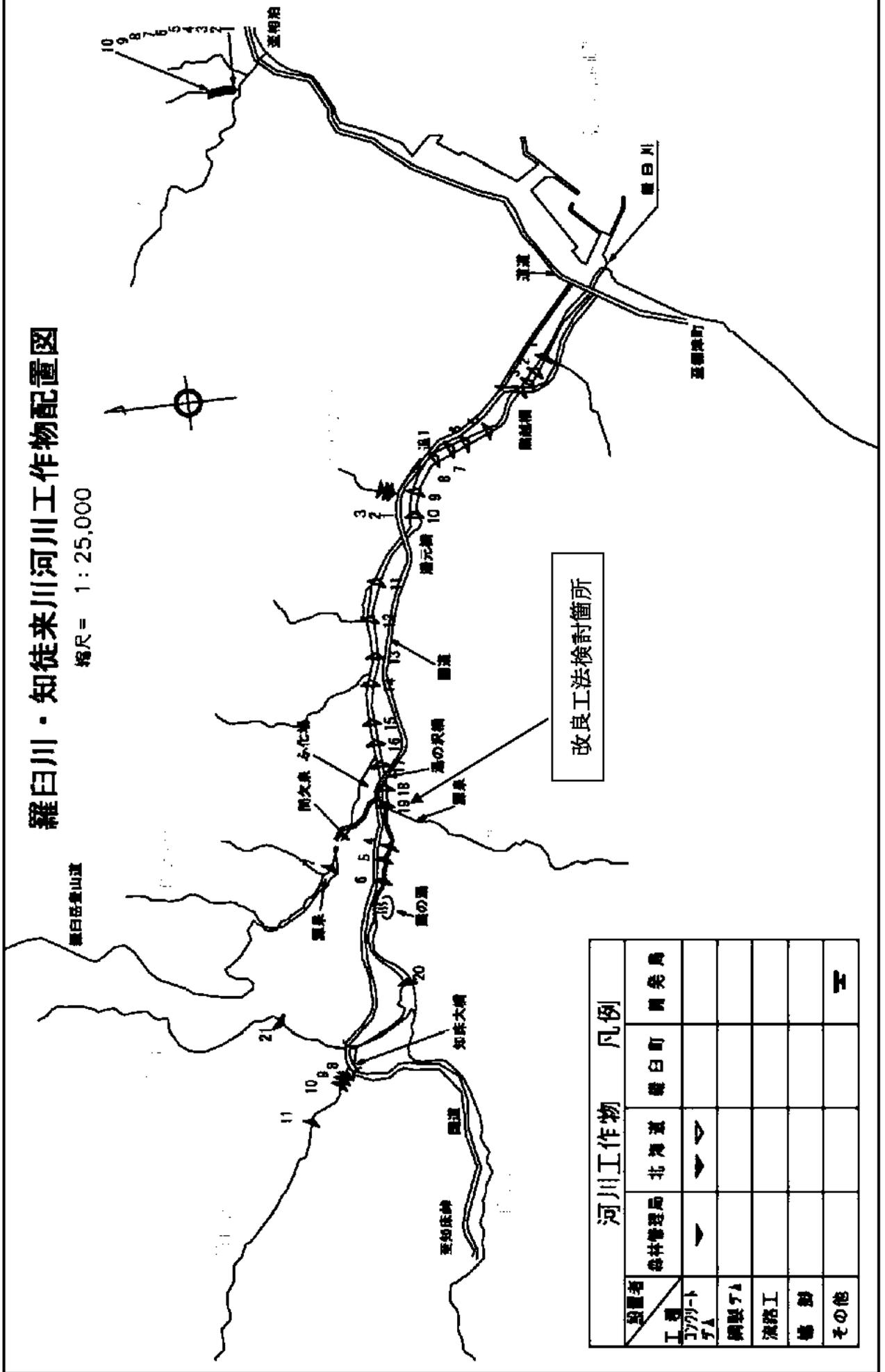


河川工作物改良工法

—北海道 砂防災害課—

# 羅臼川・知徒来川河川工作物配置図

縮尺 = 1 : 25,000



河川工作物 凡例	
設置者	
工務局	▲
建設局	▼
国	△
道	▽
市	◇
町	◇
村	◇
その他	■

## 羅臼川 特別緊急砂防えん堤(NO19) 改良方針

北海道釧路土木現業所

### (1) 工作物(既設砂防設備)の概要

昭和 36 年の災害を契機に計画し、昭和 38～39 年度に建造した。その後の度重なる豪雨で満砂となり、昭和 59～61 年度にかけて過堆積土砂を含め約 19,000m<sup>3</sup>の除石を行い、現在に至っている。

#### (えん堤形状)

えん堤高—5.3m, 有効落差—4.0m, 水通し幅—20m  
堤長—71.0m, 計画貯砂量—10900m<sup>3</sup>,

#### (現在堆砂状況)

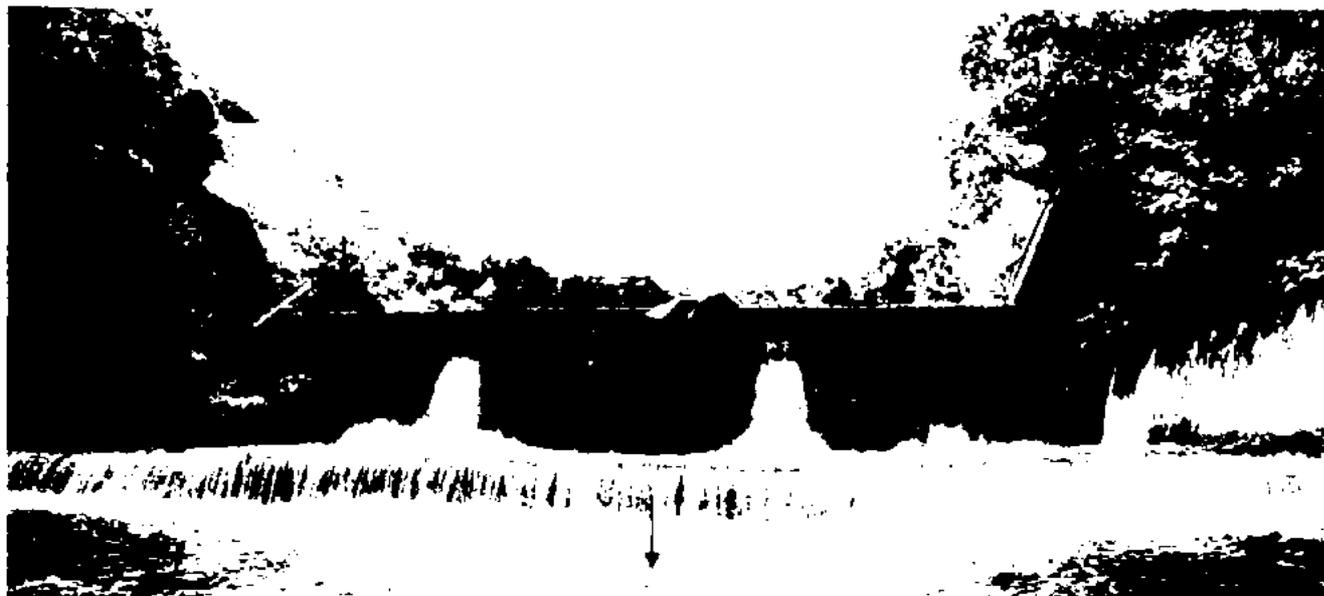
現在堆砂量—8800m<sup>3</sup>  
除石後の昭和 62～平成 18 年において、計画貯砂量の約 8 割。

### (2) 工法選択に際しての基本方針

- ・サケ科魚類の移動が容易となる構造  
(本堤と下流端部の 2 箇所の落差への対応)
- ・上下流河川環境に配慮した工法
- ・防災機能を確保できる工法
- ・改良後の維持管理が容易な工法

### (3) 改良方針

本堤にスリットを設け、その下流に全断面式の魚道を設ける。この改良により、サケ科魚類の移動、防災機能の確保、中小洪水時の下流への土砂供給が期待できる。



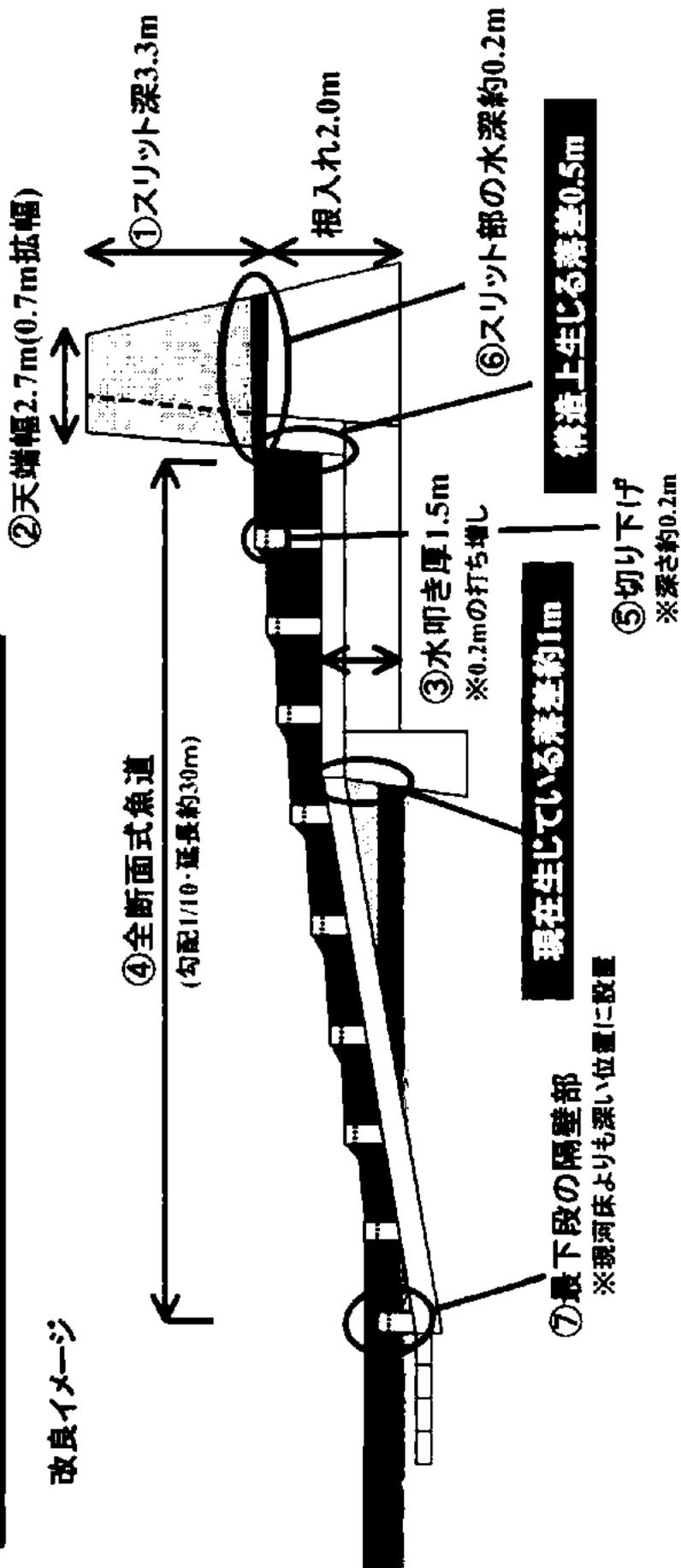
羅臼川 特別緊急砂防えん堤(NO19) 正面写真



羅臼川 特別緊急砂防えん堤(NO19) 上流側写真

羅臼川 特別緊急砂防えん堤 (NO19) の改良について

改良イメージ



切り下げ部イメージ

